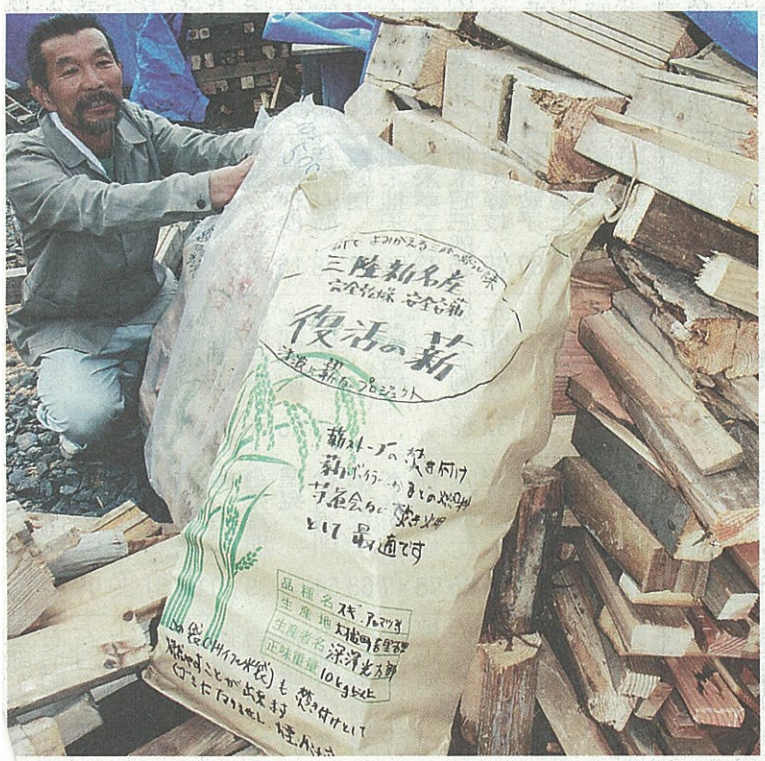
讀賣新聞 〈全国版〉 2011年(平成23年)5月11日(水曜日)

家屋廃材「復活の薪」に

被災者ら販売へ

岩手大槌町 がれき撤去も促進



「廃材を利用した『復活の薪』の販売を、再起への弾みに」と話す芳賀正彦さん（10日、岩手県大槌町で）

津波で甚大な被害を受けた岩手県大槌町吉里吉里地区の被災者がボランティアらの力を借りて、近く家屋の廃材を薪ストーブ用の燃料に加工して売り出す。収益は廃材集めに汗を流す被災者に贈り、がれき撤去の促進と被災者支援の一石二鳥を狙う。（田畑清二）

国土地理院の調査によると、大槌町は市街地の約50％が浸水した。その結果、家屋の柱や梁などが大量に流れ出し、行方不明者の捜索や交通を妨げた。厄介者の廃材だが、吉里吉里地区の避難所に簡易風呂が作られると、貴重な燃料に生まれ変わり、被災者たちを喜ばせた。

さらに、大阪市のボランティアが大量に積まれた廃材を見て、「これ、売れへんやろか」と一言。間伐材で収益を上げている岩手県や高知県のNPO関係者も賛同し、「復活の薪」の名で売り出す話がまとまった。

スギやアカマツといった針葉樹で、防腐剤や接着剤を使っていない廃材を薪にする。長年使われたものは、波にのまれても海水が中まで浸透せず、すぐ燃料にできるという。

廃材は被災者が回収し、チェーンソーで30㌢程度に切断してから袋詰めする。価格は10㌔500円。当面、岩手県遠野市のNPOなどと共同で、インターネット販売する計画だ。東北地方は薪ストーブの家が多く、すでに口コミで岩手、福島県から「復活の薪」への問い合わせが来ているという。

津波で自宅が全壊し、避難所で暮らす芳賀正彦さん(63)も廃材集めに精を出す一人。「暮らしは大変だが、薪には事欠かないので、頑張って何とか再起の足しにしたい」と笑顔で話していた。

問い合わせは、岩手県県南広域振興局遠野農林振興センターの深沢光さん（0198・62・9933）へ。